

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 8 日現在

機関番号：32718

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04631

研究課題名(和文) 格差社会におけるリスク生徒の学力・進路保障の研究 - カナダの包括的支援と比較して -

研究課題名(英文) A study on community based comprehensive supports for children in low-income communities in Canada

研究代表者

佐藤 智美 (Sato, Satomi)

東洋英和女学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：80240076

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、低所得家庭の子どもの進学支援に関して、パスウェイズ・トゥ・エデュケーションによる地域社会における包括的支援と大学自体による支援の事例について聞き取り調査を実施した。

カナダ・ノバスコシア州のパスウェイズ・ハリファックスでは、低所得家庭の子どもの学習機会保障のためにコミュニティの実情に合わせたプログラム実施を行っている。また、ニューブランズウィック州のセントジョンでは、パスウェイズ・プログラムによる支援のほか、若者ホームレス支援にも積極的に取り組んでいる。オンタリオ州のレイクヘッド大学はアチーブメント・プログラムを創設し同大学への進学を目指した活動を行っている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、近年日本においても関心が高まっている低所得家庭出身の子どもの高等教育進学に対する支援についてカナダの事例を調査した。

パスウェイズ・トゥ・エデュケーションによる地域社会における包括的支援とレイクヘッド大学のアチーブメント・プログラムの事例は、財政的援助に限定されない支援策が意味を持つことを示している。

日本では、ようやく奨学金等の財政的援助が整備されつつあるとはいえ、子どもの学習意欲や進学に対する意識形成について包括的支援が十分にあるとはいえない。パスウェイズやレイクヘッド大学の事例から地域や大学は低所得家庭の子どもの学習意欲と将来展望の形成にどう貢献ができるかの示唆を得た。

研究成果の概要(英文)： The poverty reduction strategy of Nova Scotia was set in 2009, however progress measures have not been in place. This study examined what Nova Scotian children and youth with economical disadvantages need and experience in order not to fall into poverty in future.

TRC has partnered with Pathways to Education since 2016 and in addition to other programs, provided support for youth in the community. This study paid special attention to TRC's programs for vulnerable youth, which include personal case planning and the supply of daily necessities.

Lakehead University set up Achievement Program in 2011 through which children from low-income families in Thunder Bay and its region can enter the university. District school boards recruit grade 4 children from schools in high need each year, and connect them to the program. The children earn financial credits by participating in extra curricular activities after school and activities on the university campus from grade 4 to grade 12.

研究分野：教育社会学

キーワード：パスウェイズ アチーブメント・プログラム レイクヘッド大学 低所得 コミュニティ カナダ 進学 支援

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、子どもの貧困問題が社会的関心を集めている。貧困のために社会関係や社会制度から排除され、子どもたちの学力格差は拡大し置き去りにされるリスクのある子どもたちが抛り所を失いつつある。このような子どもたちのために多くの支援が学習を中心として展開されている。しかし、このような支援が学校とどのように連携していくか、子どもたちを社会的に包摂しつつ学習支援するという課題については必ずしも十分に議論や検討がなされているとはいえない。

佐藤・山村(2014)に明らかなように、日本に先がけて2008年にカナダ・オンタリオ州政府は「貧困の連鎖を断つ」を策定した¹。同州のNPO(Pathways to Education, 以下パスウェイズ)は2001年より低所得層の生徒に学力・高等教育への進路保障を掲げ積極的に支援し顕著な成果をあげており、本研究では、主にその高等教育への進学を目指した包括的支援を調査対象とする。

オンタリオ州・トロントのリージェント・パークで誕生したパスウェイズは、2016年の時点で、カナダの17の低所得コミュニティにおいて全中等学校生徒のために包括的プログラムによって支援している。このプログラムによる支援は学習支援、社会的支援、経済的支援、擁護の4つを柱としており、地域や学校とも連携して実施されている。

2. 研究の目的

本研究では、オンタリオ州政府がその支援と成果を認知しているNPOを研究対象の核の一つとしている。その支援内容が独自で明確な理論と実証のうえに成り立ち、かつ顕著な成果を上げているものの日本での認知はほとんどない。パスウェイズの目標は、排除されリスクある生徒の中等学校ドロップアウト率低下に限らず、高等教育への進学を援助することにも特徴がある。

各地のパスウェイズを対象としてそのプログラムが普及する一つの鍵となる内容の再検討と地域特性を考慮した内容がプログラム骨子にどう付加されているか、および生徒の将来展望・社会性の向上に寄与する諸要因を解明する。また、プログラムの実施主体であるホスト組織・団体についてもその取り組み内容や組織特性について解明する。

3. 研究の方法

まず、パスウェイズのプログラムの学習支援や社会的支援について、プログラムが実施されている現場で参与観察を行い、支援内容、形式をはじめ地域住民ボランティアの子どもたちへの関わりに関する調査を行う。さらに、オンタリオ州でのパスウェイズの支援現場を選定し、参与観察と聞き取り調査を行う。次いで、プログラムの定着の責任を負っているホスト組織・団体の活動内容や状況、その地域における役割を聞き取りと資料によって調査する。また、カナダにおいて、大学自体が地域社会との連携で低所得層の子どもの高等教育進学をサポートしているかについて、大学の支援プログラムの内容や現状について聞き取りを行う。

4. 研究成果

(1) カナダ・ノバスコシア州ハリファックスのパスウェイズ

カナダ・ノバスコシア州の子どもの貧困

ノバスコシア州の子どもの貧困率は21.6%であり、6歳未満の子どもの貧困率はさらに高く、26.2%となっている。幼少期の環境が子どもの発達に及ぼす影響は大きいと考えるならば、貧困の中に生活している子どもにとって現在から将来に渡る様々な機会の損失になる危険性がある²。2019年2月28日のグローバル・ニュース(Global News)によれば、10州のうち、ノバスコシア州のみが子どもの貧困率が上昇した州であり、その数値は2015年の15.7%

から 2017 年の 17.1%になった。

ハリファックスの子どもたちの貧困率はノバスコシア州の中では相対的には低い。コミュニティ間の子どもたちの貧困率の差は大きく、10 人の子どものうち 7 人が貧困の中で生活しているコミュニティもあれば、100 人の子どものうち 3 人の子どもが貧困の中にいるコミュニティもある³。

低所得層の子どもたちの学習・進学機会 - パスウェイズ・ハリファックス (Pathways Halifax)

2019 年 3 月現在、ノバスコシア州には 1 か所のコミュニティでパスウェイズがプログラムを実施し、300 人以上の中等学校生徒を支援している⁴。ノバスコシア州のパスウェイズはハリファックス地区のスプリーフールドにあるため、パスウェイズ・スプリーフールドとも呼ばれている。スプリーフールドは、ひとり親家庭の割合が高く、貧困、失業、低い教育達成という問題のある地域を抱えている。また、若者が利用できる交通機関がない、課外活動プログラムがない、中等学校中退率が高いなどの困難がある⁵。パスウェイズ・スプリーフールドはチェブクト・コネクションズ(以下、チェブクトとする)をパートナーとしている。チェブクトは 1987 年の創設以来、住民がより快適に生活できるように支援する中心的存在である⁶。

2010 年にパスウェイズ・スプリーフールドは 57 人の生徒が参加して始動した。ここでは、場所が狭いために交代制にして学習時間を確保しており、放課後の学習時間帯を 4 つに区切り、いずれかの都合の良い時間帯に学習支援を受けに来ることになっている。パスウェイズ・プログラムがチェブクトに導入される以前には、中等教育修了率が 55%であったが、2015-16 年には 89%になった。これまでに、中等学校在学中にパスウェイズ・スプリーフールドの支援を受けてプログラムを終了した生徒の 73%が中等後教育に進学している⁷。

(2) ニューブランズウィック州セントジョン市の若者支援

パスウェイズ・セントジョン

パスウェイズ・プログラムは、TRC (Teen Resource Centre) がパートナーとなって、2016 年 9 月より実施されている。ウォータールーブレッジとサウスエンドに囲まれた区域に住むすべての中等学校の生徒が支援対象となっている⁸。TRC によれば、当時のウォータールーブレッジとサウスエンドの貧困率は 30%で、子どもたちの貧困率は 49.5%に至っていた。また、調査によれば、このコミュニティの若者の 90%はいじめや家庭問題などの社会的問題があると答えており、25%の若者は中等学校を卒業できそうにないと考えており、また 25%の若者が中等学校を卒業したとしても、本来 4 年のところを 5 年ないしは 6 年かかるだろうと答えている⁹。

プログラム開始 3 年後の 2019 年 11 月現在、プログラム参加登録者は 120 人であり、学習支援のチュータリングは月曜日～木曜日は午後 4 時～5 時、金曜日は午後 5 時～6 時に行われている。生徒は週に最低 2 回はここで学習することになっている。パスウェイズ・セントジョンのプログラムでは、ボランティアと TRC のスタッフとの合計 15 人でサポートしている。近年、移民の増加のため、英語を習得するための援助が必要となっている¹⁰。2020 年にはじめてのプログラム修了生が出る予定であり、2019 年 11 月の時点で 4 人の生徒が大学進学する予定である¹¹。

ティーン・リソース・センター (TRC)

TRC は、2007 年から、コミュニティの若者のために安全で励みとなるような環境を提供することを使命とし、様々なサービスやプログラムを用意している。支援対象は 12 歳～30 歳の若者であり、単なる安全な場所であるだけでなく心地よい居場所、カウンセリング、雇用・教育上の支援を提供するサービスやプログラムを準備している。また、衣類のストックや洗濯室、シャワ

ールーム、コンピュータールームがあり、若者は自由に利用することができる。TRC は他に頼れる場所がない若者のために存在している。パスウェイズは TRC をパートナーとし、2016 年からそのプログラムによる支援を開始した。このパスウェイズ・セントジョンは、ニューブランズウィック州では最初のパスウェイズ・プログラム実施例であり、かつ唯一でもある。

TRC が支援対象とするコミュニティでは 2 人に 1 人の子どもが貧困の中に生きている。ホームレスの若者や他人の家を泊まり歩く若者への支援を重視し、困難な若者の日常生活を支えている。さらに、このような若者が抱える教育・雇用上の問題にも一緒に向き合う。筆者らがこれまで訪問し調査したパスウェイズ・プログラムの実施団体の中でも、TRC は住所さえ持たない若者を支援することを最も明確に打ち出している。このような若者支援を積極的に行っている団体がコミュニティの中のどこかにひっそりとあるというよりは、その外観からも分かるように、その存在は人目を引いていた。最も困難な状況下にある若者は家族の保護や援助からも疎外される現実日本社会の中にも確実に存在しており、TRC は学ぶことの多い活動組織である。

(3) カナダ・レイクヘッド大学のアチーブメント・プログラム

サンダーベイ市にあるレイクヘッド大学

サンダーベイ市は、2016 年の国勢調査の結果によれば、人口はおよそ 108,000 人である¹²。その人口の 12.8% は先住民であり、先住民人口の 75% がファーストネイション、23% がメティス、2% がその他である。サンダーベイ市はファーストネイションのコミュニティが多く、そのためオンタリオ州内の他の地域と比較して先住民人口の割合が高い¹³。

レイクヘッド大学は 1965 年 6 月 1 日に人文・自然科学においてレイクヘッド大学としてはじめて学位を出した¹⁴。大学のモットーは「努力による達成」で「何を考えるかではなく、どう考えるか」の教育を提供する革新的大学であることを使命としている¹⁵。

アチーブメント・プログラム

レイクヘッド大学のアチーブメント・プログラムに参加できるのは、大学進学には社会経済的障害がある子どもとその家族である。レイクヘッド大学とパートナーを組む教育委員会が必要度の高い学校を選び、学校が該当する子どもたちをプログラムに繋いでいく。登録した子どもとその家族は初等学校の 4 年生から中等学校の最終学年である 12 年生までプログラムに参加する。

4~12 年生までの 9 年間に子どもたちは毎年の要件を満たすことによって経済的クレジットを積み上げていく。要件とは、成績の基準を満たすこと、自分の学校やコミュニティで 2 つの課外活動への参加(たとえば、学校のサッカーチームやお昼休みの科学クラブ参加など) 大学キャンパスでの活動への参加である¹⁶。子どもが中等教育修了ディプロマまたはそれに相当する資格を得ると、それまでに蓄積した経済的クレジットはレイクヘッド大学の 1 年生時の授業料を払う資金となる。ただし、子どもによっては中等教育を修了するのに時間がかかるため、中等教育修了ディプロマや資格を得るまでに 9 年生から 7 年間かかってもよい。さらに、蓄積された経済的クレジットの使用を 5 年間猶予することができ、また他の教育上の費用にあてることもできる。このような時間的猶予は、中等教育修了後すぐには自分が何をしたいのかわからない子どもの場合には大学で何を勉強したいのかを自覚する期間として意味を持つ。

4 年生という早い段階からのサポートには学ぶべきことが多い。大学進学を考えるには早すぎるとも思える段階から、自分が将来来る場所という親しみと意識を育てる。大学進学のための経済的な裏付けができたとしても、学業から後退したり、学業に対する姿勢が維持されていなか

れば、進学への準備状態は整わず決断はにぶる。学力格差は初等教育段階から始まっているとすれば、その格差が拡大する前にサポートを開始することは重要である。子どもたちの学習への意欲や態度は大学進学よりもはるかに早い時点から築かれているからである。

【引用文献】

- ¹佐藤智美・山村滋（2014）「低所得層の子どもに中等後教育の機会を開く」
『大学入試センター研究開発部リサーチノート』RN-14-01。
- ²The Nova Scotia Advocate (2017) <https://NSADVOCATE.ORG/2017/11/23/time-for-a-new-social-contract-to-eradicatespod>（2018年5月4日閲覧）。
- ³Frank, L & Saulnier, C. (2017) “2017 Report card on child and family poverty in Nova Scotia”, Nova Scotia pp.11-13.
- ⁴Pathways to Education (2019) *2018 Results summary*, Pathways to Education, p.4.
- ⁵Pathways to Education <https://www.pathwaystoeducation.ca/halifax-spryfield>
(2019年3月11日閲覧)。
- ⁶GHEBUCTO CONNECTIONS <http://chebuctoconnections.ca/about-us/>
(2019年3月10日閲覧)。
- ⁷*Ibid.*, (2019年3月10日閲覧)。
- ⁸Pathways to Education <http://www.trc4youth.org/pathways-to-education.html>
(2020年5月25日閲覧)。
- ⁹Sarah Trainor CBC News Posted June 08, 2016 <https://www.cbc.ca/news/canada/new-brunswick/pathways-education-saint-john-1.3621752> (2020年5月25日閲覧)。
- ¹⁰2019年11月21日 TRCにおける聞き取り調査から。
- ¹¹同上。
- ¹²Census Profile, 2016 Census Statistics Canada: Thunder Bay, City Population
(2020年5月29日閲覧)。
- ¹³Wellesley Institute (2019a) *Community report Thunder Bay: Supports for success; a project of Wellesley Institute*, Wellesley Institute pp.7-8.
- ¹⁴Lakehead University <https://www.lakeheadu.ca/about/overview/history>
(2020年6月4日閲覧)。
- ¹⁵Lakehead University <https://www.lakeheadu.ca/about/overview/vision-and-mission>
(2020年6月4日閲覧)。
- ¹⁶Lakehead University <https://ec.lakeheadu.ca/giving/projects/node/211>
(2020年6月6日閲覧)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐藤智美 山村滋	4. 巻 RN-20-03
2. 論文標題 低所得層の子どもへの大学進学機会を保障するために大学ができること - カナダ・レイクヘッド大学の アチーブメント・プログラムによる挑戦 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学入試センター研究開発部リサーチノート	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤智美 山村滋	4. 巻 RN-20-02
2. 論文標題 カナダ・ニューブランズウィック州セントジョン市の低所得コミュニティにおける若者支援	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学入試センター研究開発部リサーチノート	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤智美 山村 滋	4. 巻 RN-18-05
2. 論文標題 カナダ・ノバスコシア州の貧困削減対策と学習保障機会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学入試センター研究開発部リサーチノート	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤智美、山村滋	4. 巻 RN-17-02
2. 論文標題 オンタリオ州の貧困削減対策-「連鎖を断つ（Breaking the Cycle）」から「可能性を引き上げる（Rasing the Potential）」へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学入試センター 研究開発部リサーチノート	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤智美	4. 巻 2016年度
2. 論文標題 貧困削減対策としての就学前教育 - カナダ・オンタリオ州の『連鎖を断つ (Breaking the Cycle)』における幼児教育 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東洋英和女学院大学 『保育子ども年報』	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤智美 山村滋	4. 巻 No.46
2. 論文標題 低所得コミュニティにおける中等教育修了と中等後教育進学のための支援	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学入試センター 『研究紀要』	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山村 滋 (Yamamura Shigeru) (30212294)	独立行政法人大学入試センター・研究開発部・教授 (82616)	